

ゴール 古典を読んで、おかしの人のお見方や考え方にふれてみよう。

一 今から約千年前に書かれた随筆「枕草子」を(1)(2)のように読みましょう。

まくらのそうし

枕草子

せいしょうなごん

清少納言

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

【口語訳】

春は夜明けがよい。だんだん白んでいく山際の空がほのかに明るくなって、むらさき色の雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がすばらしい。月の出ているころは言うまでもなく、闇夜でもやはり、たくさんのお螢が入り乱れて飛んでいるのはいいものだ。また、ほんの一つ二つだけ、かすかな光を放って飛んでいくのも風情がある。雨などが降るのも風情がある。

(1) 題名から口語訳までを読みましょう。

(2) 題名から本文までを、繰り返して読みましょう。

三 「枕草子」の口語訳を調べて、二で書いたあなたのお考えと比較しましょう。



ふりかえり

- ・ 古典の文をすらすら読むことができた。
 - ・ 自分の考えを、まとめることができた。
 - ・ おかしの人と自分の考えを比べて考えることができた。
- () () ()

口語訳とは、現代語でやさしく書きかえた文章のことです。



二

(1) あなた自身が、それぞれの季節でよいと思う時間帯とその理由を書きましょう。

春は、【 】がよい。

春

夏は、【 】がよい。

夏

(2) 清少納言が枕草子で書いていることと、あなたのお考えを比べて思ったことを書きましょう。

Blank lined area for writing answers to question 2.

ゴール 古典を読んで、おかしの人のお見方や考え方にふれてみよう。

- 一 今から約千年前に書かれた随筆「枕草子」を(1)(2)のように読みましょう。

まくらのそうし

枕草子

せいしょうなごん

清少納言

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく
山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲
の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみも
なほ、螢の多く飛びちがひたる。また、
ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて
行くもをかし。雨など降るもをかし。

【口語訳】

春は夜明けがよい。だんだん白んでいく山際の空が
ほのかに明るくなって、むらさき色の雲が細くたな
びているのがよい。

夏は夜がすばらしい。月の出ているころは言うまで
もなく、闇夜でもやはり、たくさんのお螢が入り乱れ
て飛んでいるのはいいものだ。また、ほんの一つ二
つだけ、かすかな光を放って飛んでいくのも風情が
ある。雨などが降るのも風情がある。

- (1) 題名から口語訳までを読みましょう。
- (2) 題名から本文までを、繰り返して読みましょう。

三 「枕草子」の口語訳を調べて、二で書いたあなたのお考えと比較しましょう。



ふりかえり

- ・古典の文をすらすら読むことができた。
 - ・自分の考えを、まとめることができた。
 - ・おかしの人と自分の考えを比べて考えることができた。
- () () ()

口語訳とは、現代語でやさしく書きかえた文章のことです。



二

- (1) あなた自身が、それぞれの季節でよいと思う時間帯とその理由を書きましょう。

春は、「夕方」がよい。

春

タンポポのわた毛が風に吹かれてまいあがる時、夕日にすけてきらきらとかがやいてみえるから。

夏は、「夜」がよい。

夏

まっ暗な夜空に打ち上げられた花火から、色とりどりの光がはなたれ、とてもきれいだから。

- (2) 清少納言が枕草子で書いていることと、あなたのお考えを比べて思ったことを書きましょう。

清少納言は、季節によって変わる自然のすばすばらしさに注目して生活していると思った。

春でよいと思う時間帯が、清少納言は朝、

私は夕方とちがっていておもしろいと思った。